

## 令和7年度岐阜県私立大学地方創生推進事業 事業報告書

## 1 事業者

学校法人名	華陽学園
理事長名	杉山博文
学校名	岐阜女子大学
学校代表者名	高口 努
学校所在地	岐阜市太郎丸80番地
担当者 役職・氏名	事務局長・倉坪弘一
電話番号	058-229-2211
メールアドレス	<a href="mailto:kuratubo@gjiodai.ac.jp">kuratubo@gjiodai.ac.jp</a>

## 2 事業分野（対象分野に○を記載。複数も可。）

	地域貢献促進事業
	大学生等の県内就職促進事業
○	地域人材の育成事業

## 3 事業名

DXで実現する地域のデジタル人材育成事業
----------------------

## 4 実施事業概要

	新規	○	拡充	（該当する方に○を記載）
<p>○実施した事業内容を要約して記載してください。</p> <p>○地域産業や地域社会を担う人材確保のため、デジタル・グリーン等成長分野に関するリスキリングを推進する、このためにリスキリング教育のための「Multi Campus One Digital University」を新たに構築し、地域人材の育成カリキュラムを開発し実践する。</p> <p>（注）「Multi Campus One Digital University」とは、DX（Digital Transformation）時代における“新たな学び”の創出により、デジタル技術を活用し、学びのあり方やカリキュラムを革新させると同時に、リスキリング文化を革新し、時代に対応した新たなリスキリング教育システム。</p> <p>○本システムにより、全ての講座をいつでもどこからでも受講できるようなオープンなデジタルユニバーシティの構築することにより、新たな雇用機会を創出し、地域に必要な人材確保の新たな展開を実現する。</p>				

## 5 実施事業内容

○下記の内容について記載してください。

### ・実施事業の具体的な内容

○少子高齢化社会において、人手不足が深刻化している地方や中小企業ではデジタル化は急務であるが、それを進める人材は少なく採用に苦慮している。このため、現有人材をデジタル人材化するための教育が各企業で進んでいる。

○2022年秋の段階で、DXに取り組んでいる企業のうち8割以上が従業員のリスクリングに取り組んでいる。

○総務省も、人への投資を推進しており、官民連携でリスクリングに取り組む自治体が出てきている。地域に必要な人材の確保のため、地方自治体が企業のデジタル人材育成を支援する動きは、今後も活発化すると予想される。

○企業内研修とは異なり、民間企業や個人向けに学習の機会を提供するには複雑な仕組みが必要である。しかし、すべての企業が①誰もが学べる環境を整備する②人々が学びたいテーマの教育を準備する③誰が何を学んだか知識が身についたか進捗を確認するなどを行うことは難しい。

○それを一気通貫で実現できるのが本学が構想する「Multi Campus One Digital University」である。「Multi Campus One Digital University」では、高度な指導者によるカリキュラムの開発やe-Learning配信システムを用いて自律的な学習環境を提供する。

○本システムにより、全ての講座をいつでもどこからでも受講できるようなオープンなデジタルユニバーシティの構築することにより、新たな雇用機会を創出し、地域に必要な人材確保の新たな展開を実現する。

○これまでの産業構造が根本的に変化したことにより、かつての主力産業の衰退や業務のロボット化・デジタル化が一気に進んだ。それに伴い、企業は大量の余剰人員を抱えることになった。しかも多くの企業は、斜陽に差し掛かっているこれまでの事業の延長線上ではなく、新たな事業を開拓できるイノベーション人材を求めている。

○その一方で、急速に進んだDXに対応できるIT人材不足は深刻な状況に陥っている。（例えば、これまでテレビを主力商品として開発・製造していたメーカーが、テレビの生産をストップさせ、代わりにロボット技術の開発に事業移管する、といったイメージ。）

○こういった場面で直面するのが、もう必要のなくなったスキルしか持たない従業員の処遇と、新事業で必要とされる新たなスキルを持つ人材の不足である。その時、余剰となった人材を再教育（リスクリング）して再配置し、新たな雇用機会の創出につなげるというのがリスクリングの考え方である。

○リスクリングが重視されているもうひとつの理由として、DXへの対応がある。DXとは単なるデジタル化・効率化ではなく、企業の製品やサービス、ビジネスモデル、そして組織そのものを変革させることである。事業構造の変化に伴い、これまでと全く違うスキルがすべてのプロセスにおいて求められることになる。

○DXは一部のIT技術者だけが対応すれば良いというものではない。今いるすべての従業員たちが、会社の変化を理解し、新たな知識やスキルを身に付け、新しい仕組みに順応して業務を行い、利益を上げていく。

○企業がDXに本気で取り組もうとする時、すべての従業員にリスクリングが求められる。自社の従業員が現在保有しているスキルは何か、これから必要となるスキルは何か。それを可視化させ、ギャップを埋めるリスクリングプログラムを用意する必要がある。

○令和7年度、リスキリング教育プログラムとして開発する内容は以下の通りである。

セッション① AI（人工知能）講座

【データサイエンスから見える新たな学びの未来】

- ① 【オンライン】教育とデータサイエンス  
講師：成瀬喜則氏（富山大学・名誉教授）
- ② 【オンライン】学びのプロセスの可視化と学力  
講師：山本朝彦氏（横浜国立大学大学院教育学研究科・教授）
- ③ 【オンライン】AIと共に生きる時代における教育と研究へのAI活用  
講師：藤吉弘亘氏（中部大学AI数理データサイエンスセンター・教授）
- ④ 【e-Learning】人工知能概論【I】  
～AIの過去から未来へのプロローグ～
- ⑤ 【e-Learning】人工知能概論【II】  
～データサイエンスから見える新たな学びの未来像～

セッション② デジタルアーキビスト講座

【デジタルアーカイブにおける新たな価値創造】

- ① 【オンライン】VRからデジタルエンターテインメントへ  
講師：廣瀬通孝氏（東京大学・名誉教授）
- ② 【オンライン】戦災・災害のデジタルアーカイブ  
講師：渡邊英徳氏（東京大学・教授）
- ③ 【オンライン】考古学調査における3次元デジタルアーカイブ  
講師：江添 誠氏（岐阜女子大学・准教授）
- ④ 【e-Learning】デジタルアーカイブ概論【I】  
～デジタルアーカイブによる地域活性化～
- ⑤ 【e-Learning】デジタルアーカイブ概論【II】  
～デジタルアーカイブにおける新たな価値創造～

セッション③ 学校DX戦略コーディネータ講座

【未来を創る教育設計～カリキュラム開発の新しい視点～】

- ① 【オンライン】国際的な視点から見た教育のあり方について  
講師：白井 俊氏（東京科学大学・副学長）
- ② 【オンライン】日本の学校カリキュラムの歴史と概要  
講師：安彦 忠彦氏（名古屋大学・名誉教授）
- ③ 【オンライン】カリキュラムの評価と改善  
講師：高口 努氏（岐阜女子大学・学長）
- ④ 【e-Learning】学校DX戦略コーディネータ概論【I】  
～教育DX時代における新たな学び～
- ⑤ 【e-Learning】学校DX戦略コーディネータ概論【II】  
～学校DX戦略の策定と展望～
- ⑥ 【e-Learning】学校DX戦略コーディネータ概論【III】  
未来を創る教育設計～カリキュラム開発の新しい視点～
- ⑦ 【e-Learning】学校DX戦略コーディネータ概論【IV】  
～教育DX時代における教材開発～
- ⑧ 【e-Learning】学校DX戦略コーディネータ概論【V】  
～AIの過去から未来へのプロローグ～
- ⑨ 【e-Learning】学校DX戦略コーディネータ概論【VI】  
～データサイエンスから見える新たな学びの未来像～
- ⑩ 【e-Learning】学校DX戦略コーディネータ概論【VII】  
～デジタルアーカイブによる地域活性化～
- ⑪ 【e-Learning】学校DX戦略コーディネータ概論【VIII】  
～デジタルアーカイブにおける新たな価値創造～

・事業実施による効果の分析・検証

○本事業では、岐阜県における地域人材の育成事業として次のような課題を設定している。

○AIやDXによる業務効率化、脱炭素化が進むこれからの時代、社会で活躍し続けるためには、常に知識・スキルをアップデートして変化に対応することが必要である。

○そのための学びのあり方として、リカレント、リスキリングといった社会人の学び直しへの関心が高まっている。

○一方で、学び直しに興味はあっても、学費の負担や時間の確保がネックとなり、二の足を踏んでいる社会人は少なくない。

○そこで、産業界や社会のニーズを満たすリスキング教育プログラムの開発・提供を行い、社会人のスキルアップやキャリアアップ、キャリアチェンジを後押しする。

○本リスキング教育プログラムのコンセプトとして、時代の潮流に即した最先端で、各分野において最先端の知見を有する講師により、スキル修得を目指したコンテンツを活用し、いつでもどこでも学習できる環境であるオンデマンドな学習環境を構築する。

○今回の事業を行うことにより、現代のトレンドの技術であるAI（人工知能）とデジタルアーキビスト並びに学校DX戦略コーディネータを取り上げた。

○これらの内容は、実は関連しており、デジタルアーカイブされた学習データによりAI（人工知能）が学習し、学校教育などでこれらを活用するための人材として学校DX戦略コーディネータの養成が急務となっている。

○オンライン講座とオンデマンド講座【e-Learning】を組み合わせた学習カリキュラムは独創的であり、これからのリスキリングにも主流となる学習方法であると考えられる。

○そのために、e-Learning講座を、昨年度の事業での成果も併せて、12講座作成し、オープンデータとして公開している。

○e-Learning講座は、動画を公開することだけではなく、①何を学ぶか②学習到達目標③課題④プレゼン資料⑤動画資料⑥テキスト⑦資料と7つの内容を各講に構成し、自律的な学習ができるように工夫している。

○また、プレゼン資料と動画資料については、AIにプレゼン資料と動画資料を内容にそって創作させ、それも同時に表示している。

○講座後の評価の調査では、AIによるプレゼン動画資料については、内容の導入には効果的であり、AIの資料を見て、講師の作成したプレゼン資料や動画資料を見て学習すると学習がより深化するとの評価する指摘があった。

○また、動画も20分以内と限定し、また、テキストについても6ページ以内と簡潔にすることにより、学習者が忙しい時間を使っての効果的な学習ができるように工夫した。

○学習到達目標を明示することにより、学習者がゴールを意識して学習でき、また、課題を設定することにより、発展した学習の指針を示すことが可能になる。

○リスキリングには、対面の学習に比べてより自律的・主体的な姿勢が学習者に求められる。

○本事業での学習方法が、今後、リスキリングの主流になると考えている。

#### ・今後の課題分析・改善策

○本事業で開発したオンデマンドとオンライン講座のミックスした学習方法は今後の大学の授業でも効果的である。

○本事業で開発した教育方法を“デジタル・フュージョン・ラーニング (Digital Fusion Learning)”と定め、次のように考えている。

○デジタル・フュージョン・ラーニングは、伝統的な学習方法とデジタル技術を融合した新しい学習アプローチである。このアプローチでは、学習者がデジタルツールやオンラインリソースを活用しながら、対面授業や対話型の学習体験を組み合わせることで、より効果的な学びを提供することができる。

○また、デジタル技術を活用することで、学習者はより柔軟な学習スタイルを選択し、自分のペースで学習を進めることができ、またデジタルツールを活用することで、学習者同士や教師とのコミュニケーションが促進され、より豊かな学習体験が可能となる。

○このように、デジタル・フュージョン・ラーニングは、伝統的な学習方法とデジタル技術を融合させることで、より効果的・効率的で魅力的な学習環境を提供する新たな学習アプローチである。

○教育のデジタルトランスフォーメーション (DX) 時代における新たな学習形態として、デジタル・フュージョン・ラーニング (DFL) の推進を提言している。

○DFLの目的は、教師による技術活用を通じて学校の組織やプロセスを革新し、従来の「全員一律の教育」から個別最適な学びを実現することにある。

○このアプローチは、伝統的な学習とデジタル技術を融合させ、学習者がタブレットやデジタル教材を柔軟に活用することで、主体的かつ対話的な深い学びを可能にする。

○提言では、教育リソース、e-ラーニング、そして協働的な課題解決学習を促すラーニング・コモンズの整備が、この学習革命を支える不可欠な要素であると論じています。特に、反転授業などの実践を通じて、知識の応用や討論に焦点を当てた質の高い学習時間を確保する必要性が強調されている。全体として、教育DXは既存の価値観を根本から覆すデジタル・ディスラプションとして捉えられており、多様な子供たちの可能性を広げることを目指している。

#### ・事業実施により生じた地域への影響

○本システムは、全ての講座をいつでもどこからでも受講できるようなオープンなデジタルユニバーシティの構築することにより、新たな雇用機会を創出し、地域に必要な人材確保の新たな展開を実現する新しい時代に対応した新たなリスキング教育システムである。

○本システムにより、全ての講座をいつでもどこからでも受講できるようなオープンなデジタルユニバーシティの構築することにより、新たな雇用機会を創出し、地域に必要な人材確保の新たな展開を実現が可能になった。

#### ・今後の事業展開の予定

○教育DX (Digital Transformation) 時代における“デジタル・フュージョン・ラーニング (Digital Fusion Learning)”とは、教師がデジタル技術を活用し、学びのあり方やカリキュラムを革新させると同時に、教職員の業務や組織、プロセス、学校文化を革新し、時代に対応した教育を確立することである。

○また、学びという側面から考えてみると教育DXの目的は、「個別最適な学びという“新たな学び”の実現」である。20世紀の学習観は、行動主義・認知主義の学習観を採用していた。しかし、21世紀に入り、学習観は「主体的・対話的な深い学びの実現」という構成主義・社会構成主義の学習観に移行した。

○この変化から分かるように、教育が「全員に同じ教育」から「個々が持つ能力を最大限活かす教育」に変化している。ここでは、これらの教育のDX時代におけるデジタル・フュージョン・ラーニングを推進していく。

**【拡充して実施した事業内容】**

**セッション① AI（人工知能）講座**

【データサイエンスから見える新たな学びの未来】

- ① 【オンライン】教育とデータサイエンス  
講師：成瀬喜則氏（富山大学・名誉教授）
- ② 【オンライン】学びのプロセスの可視化と学力  
講師：山本朝彦氏（横浜国立大学大学院教育学研究科・教授）
- ③ 【オンライン】AIと共に生きる時代における教育と研究へのAI活用  
講師：藤吉弘亘氏（中部大学AI数理データサイエンスセンター・教授）
- ⑤ 【e-Learning】人工知能概論【II】  
～データサイエンスから見える新たな学びの未来像～

**セッション② デジタルアーキビスト講座**

【デジタルアーカイブにおける新たな価値創造】

- ① 【オンライン】VRからデジタルエンターテインメントへ  
講師：廣瀬通孝氏（東京大学・名誉教授）
- ② 【オンライン】戦災・災害のデジタルアーカイブ  
講師：渡邊英徳氏（東京大学・教授）
- ③ 【オンライン】考古学調査における3次元デジタルアーカイブ  
講師：江添 誠氏（岐阜女子大学・准教授）
- ⑤ 【e-Learning】デジタルアーカイブ概論【II】  
～デジタルアーカイブにおける新たな価値創造～

**セッション③ 学校DX戦略コーディネータ講座**

【未来を創る教育設計～カリキュラム開発の新しい視点～】

- ① 【オンライン】国際的な視点から見た教育のあり方について  
講師：白井 俊氏（東京科学大学・副学長）
- ② 【オンライン】日本の学校カリキュラムの歴史と概要  
講師：安彦 忠彦氏（名古屋大学・名誉教授）
- ③ 【オンライン】カリキュラムの評価と改善  
講師：高口 努氏（岐阜女子大学・学長）
- ⑥ 【e-Learning】学校DX戦略コーディネータ概論【III】  
未来を創る教育設計～カリキュラム開発の新しい視点～

**【感染防止対策】**

○事業実施にあたり、新型コロナウイルス感染防止対策をどのように行ったか記載してください。

○対面講習を避けオンライン講座やオンデマンド講座に変更する。

○うがい・手洗い・アルコール消毒を励行し、検温等の体調管理を行う。

○撮影時には手指の消毒を徹底する。

○取材など人的交流が想定時は想定される場合は、簡易検査キットにより確認し、マスクを常時着用する。

○取材等には3密を避けた対応を行う。

※事業実施の状況が分かる資料（写真、アンケート結果など）を添付してください。

## 6 事業目標の達成状況

○事業計画時に設定した事業目標に対する結果を記入してください。

### セッション① AI（人工知能）講座

【データサイエンスから見える新たな学びの未来】

- ① 【オンライン】教育とデータサイエンス  
講師：成瀬喜則氏（富山大学・名誉教授）
- ② 【オンライン】学びのプロセスの可視化と学力  
講師：山本朝彦氏（横浜国立大学大学院教育学研究科・教授）
- ③ 【オンライン】AIと共に生きる時代における教育と研究へのAI活用  
講師：藤吉弘亘氏（中部大学A I数理データサイエンスセンター・教授）
- ④ 【e-Learning】人工知能概論【I】  
～AIの過去から未来へのプロローグ～
- ⑤ 【e-Learning】人工知能概論【II】  
～データサイエンスから見える新たな学びの未来像～

【事業目標に対する結果】

【授業目標】受講者100名

【受講者】94名

### セッション② デジタルアーキビスト講座

【デジタルアーカイブにおける新たな価値創造】

- ① 【オンライン】VRからデジタルエンターテインメントへ  
講師：廣瀬通孝氏（東京大学・名誉教授）
- ② 【オンライン】戦災・災害のデジタルアーカイブ  
講師：渡邊英徳氏（東京大学・教授）
- ③ 【オンライン】考古学調査における3次元デジタルアーカイブ  
講師：江添 誠氏（岐阜女子大学・准教授）
- ④ 【e-Learning】デジタルアーカイブ概論【I】  
～デジタルアーカイブによる地域活性化～
- ⑤ 【e-Learning】デジタルアーカイブ概論【II】  
～デジタルアーカイブにおける新たな価値創造～

【事業目標に対する結果】

【授業目標】受講者100名

【受講者】94名

### セッション③ 学校DX戦略コーディネータ講座

【未来を創る教育設計～カリキュラム開発の新しい視点～】

- ① 【オンライン】国際的な視点から見た教育のあり方について  
講師：白井 俊氏（東京科学大学・副学長）
- ② 【オンライン】日本の学校カリキュラムの歴史と概要  
講師：安彦 忠彦氏（名古屋大学・名誉教授）
- ③ 【オンライン】カリキュラムの評価と改善  
講師：高口 努氏（岐阜女子大学・学長）
- ④ 【e-Learning】学校DX戦略コーディネータ概論【I】  
～教育DX時代における新たな学び～
- ⑤ 【e-Learning】学校DX戦略コーディネータ概論【II】  
～学校DX戦略の策定と展望～

- ⑥ 【e-Learning】学校DX戦略コーディネータ概論【Ⅲ】  
未来を創る教育設計～カリキュラム開発の新しい視点～
- ⑦ 【e-Learning】学校DX戦略コーディネータ概論【Ⅳ】  
～教育DX時代における教材開発～
- ⑧ 【e-Learning】学校DX戦略コーディネータ概論【Ⅴ】  
～AIの過去から未来へのプロローグ～
- ⑨ 【e-Learning】学校DX戦略コーディネータ概論【Ⅵ】  
～データサイエンスから見える新たな学びの未来像～
- ⑩ 【e-Learning】学校DX戦略コーディネータ概論【Ⅶ】  
～デジタルアーカイブによる地域活性化～
- ⑪ 【e-Learning】学校DX戦略コーディネータ概論【Ⅷ】  
～デジタルアーカイブにおける新たな価値創造～

【事業目標に対する結果】

【授業目標】受講者100名

【受講者】94名

※その他、参考となる資料がある場合は添付してください。